

MAENAN SAH Journal Vol.52

～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

★県教育長・県教育委員等 16 名来校 & SAH プロジェクト生徒と懇談！

7/5金午前に、平田郁美県教育長、代田秋子教育委員、川添和子教育委員、日置英彰教育委員、小島秀薫教育委員にご来校いただきました！また、高橋教育次長、栗本教育次長、小林総務課長、酒井義務教育課長、高橋高校教育課長もご一緒に来校いただき、そのほかにも6名もの指導主事もご同行されました。



総勢16名でした！それほどの方々に、本校の教育活動をご説明する機会を与えていただき、大変名誉なことと感じています！さらに、今回の訪問のメインは『SAHプロジェクト』を実際に企画運営した生徒たちと県教育長、県教育委員の方々が意見交換を行えたということです！これは異例中の異例です！生徒と意見交換をしていただくとは、生徒にとっては大変貴重な体験と言えます！



数多くの『SAHプロジェクト』をこれまでに実施していますが、今回の意見交換会には3つのプロジェクトの代表メンバーが選ばれました。①『アイスクリーム自販機』プロジェクトの関 凜音さん、小此木いろはさん、腰高 紗依さん、②『身だしなみセルフチェック』プロジェクトの上原 双葉さん、荒木 皓陽くん、坂田 登志光くん、③『SAH スキー教室Ⅱ』プロジェクトの伊佐 陽也くん、須賀 遥人くん、上杉 悠季くん、大澤 洋介くんです！

3つのプロジェクトチームの事業の経緯や、苦労話、今後の展望などが語られ、数多くの質問が寄せられ、それぞれのチームの生徒が立派に回答していました！すべて『自分たちの手』で実施した事業だけに生徒一人ひとりから『自信』や『達成感・充足感』が感じられる発表でした！質疑応答はもちろんアドリブ対応でした！その回答の様子も県教育長、県教育委員のみなさんが驚き、感心していただいたと感じられました！参加生徒のみなさんにはこの経験は一生ものになることでしょう！！



他のプロジェクトの方々、参加していただかず、申し訳ありません！しかし、活動としての報告はさせていただきました（図書委員会の活動を知っていただくために図書館も見学していただきました！）！アイスの自販機の見学もしていただきました！





授業も見ていただきました！①1-1 英語コミュニケーションⅠ（原澤 正樹教諭）、指導ポイント：『自ら考えたものを主体的に発表する』、②3-5 古典探究（藤生 卓也教諭）、指導ポイント：『主体的、対話的な学びを受験勉強につなげる』、③3-3 世界史探究（大宮 了子教諭）、指導ポイント：『資料を活用しながら主体的・協働的に学ぶ』の3つです！どの授業でも、前南生が『主体的』に取り組んでいる様子が見られました！先生方も授業中に『認知能力だけでなく、非認知能力』を育成し、かつ『主体性』を高める授業の開発に勤めています！



授業参観していた際にご覧いただいた生徒の様子にも驚いていたようでした！特に3-5の古典の授業では、生徒の各班が自分たちで『大学入試レベルの問題を作成し、他の生徒へ出題し、また、答え合わせのあとで、生徒全員に向かって解説を行って』いました。この様子を見た県教育委員さんのなかには『即、群馬県の教員になって欲しい！』との言葉も飛び出すほどの素晴らしい活動でした！



今回見ていただいたことは、ほんの『前南氷山の一角』なのだと思います！もはやどこを切り取っても『前南生徒の主体性』は現れると感じております！平田教育長をはじめ、各教育委員さんからはお褒めの言葉をたくさんいただきました！SAHを指定されたたった数ヶ月で、生徒による主体的な活動が沸き起こったこと、また、各プロジェクトにおいて、企業や大学等の外部の大人とさまざまな交渉や意見交換を行っていること、特に『身だしなみセルフチェック』においては『合意形成が難しいはず』とのご指摘を受け、生活委員会代表の坂田くんから『実はこのプロジェクトの代表の上原さんと坂田くんとの間の意見にも差があり、早急には判断できない』とし、『今年度も持ち越して議論している』と回答していただきました。その坂田くんの回答自体にも、『そう判断できることが素晴らしい！』との感想もいただきました！まさに『答えがひとつではない課題』ですので、その対応に教育委員さんは驚いていたのだと思います！今回の前南への訪問がまた、前南の生徒への刺激となったと思います！今後もがんばっていきましょう！（文責：教頭 星野 亨）



★校長より★ 今回の懇談で、教育長さんも各教育委員の方々も、生徒の皆さんがしっかりした考えを持って、主体的な活動に取り組んでいることについて、たいへん感心していました。教育委員の方々からも皆さんの活動を後押しする言葉をいただきました。いくつかを紹介させていただきます。「企業は『先輩の言うとおりに』やっていくと、いずれ無くなってしまいます。変わっていかねばならない。」「ウォークマン、味の素、ワンカップ大関などは新しいことを始めたり、工夫をしたりすることで世界を席巻したり、売り上げを大幅にアップしたりした。日常の中で工夫やアイデアを表に出すマインドを持つことが大切。ただし、マインドを持っている人は苦勞はする。」「何か工夫はあるか、自分はこうやりたい、を持っていることが大切。」今年度も、皆さんの工夫やアイデアで出された企画で良いものは、検討し、皆さんの力で実現する方向を進めていきたいと考えています。校長室で待っています。校長 原 拓史